

＜東京小児科医会報＞投稿・執筆規定

(2017年2月4日制定)

1. 東京小児科医会報(以下本誌という)への投稿は、共著者も含めてすべて東京小児科医会会員に限る。ただし、投稿論文編集委員会(以下編集委員会)より依頼した総説等についてはこの限りではない。
2. 投稿論文は臨床研究及び症例報告とする。なお、投稿原稿の最終的な種別・領域は編集委員会が決定する。投稿原稿は日本語に限り、以下の執筆要項に従う。
3. 投稿論文の領域は以下に示すものとし、執筆者は投稿時に領域を申告する。
 1. 新生児、2. 循環器、3. 神経・筋、4. 精神・心身、5. 血液・腫瘍、6. 免疫・アレルギー、7. 先天異常・遺伝、8. 腎・泌尿・生殖器、9. 内分泌・代謝、10. 感染症、11. 呼吸器、12. 消化器・栄養、13. リウマチ・膠原病、14. 保健、15. 救急、16. その他(思春期、発達、外科、病理など)
4. 原著(臨床研究)は8,000字以内、図表計8枚以内とする。症例報告は4,000字以内、図表計5枚以内とする。原稿は概ね1,600字で1ページ、大きい図表は2点で1ページ、小さい図表は4点で1ページとなる。詳細は執筆要項を参照されたい。
5. 他誌に発表された論文(投稿予定を含む)あるいはその主要部分を含む論文は受付できない。ただし、編集委員会の許諾があれば、本誌に掲載された論文を英文化して別誌に投稿することができるものとする。
6. ヒトを対象とした研究は「ヘルシンキ宣言(以後の改訂を含む)」やこれに準ずる指針の規定を遵守しなければならない。個人の匿名性を守り、説明と同意および所属施設の倫理委員会・治験審査委員会等の承認を得た旨を記載する。症例報告においても同様に対応する。
7. 利益相反に関しては投稿時にその有無を開示しなければならない。
8. 論文の採択は原則として2名以上の査読者の査読を得た後、編集委員会が決定する。査読により訂正稿となった場合、再投稿期限は6か月とする。論文採択後の内容の変更は認めない。
9. 著者校正は1回行う。論文内容や図表の修正は認めない。校正刷は受領後3日以内に返送すること。
10. 別冊は50部単位で請求できる。別冊印刷代金は全額投稿者の負担とする。
11. 論文の著作権について
本誌に掲載された論文の著作権は、著者と東京小児科医会が共有し、掲載論文の印刷、刊行、図

表の引用および転載に関する許可の権限(著作権)は、東京小児科医会に帰属する。なお、抄録部分(要旨を含む)のデータベースや抄録雑誌への二次的使用ないし転載、および当該論文の複写許諾権は東京小児科医会に委嘱されたものとする。なお、東京小児科医会と特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会との契約により、投稿論文の要旨(抄録)は医中誌にそのまま掲載される。

12. 投稿論文が採択された場合は編集協力費として5,000円を振込名義人・振込日を明記の上、郵便振替にて下記口座に振り込むこと。

なお、入金を確認後掲載される。

振込先郵便振替口座 00150-9-596215

加入者名：東京小児科医会

(トウキョウシヨウニカイカイ)

13. 投稿原稿はA4版片面に12ポイント大きさに印字した正原稿1部を、投稿通知書及び確認書、東京小児科医会報：自己申告による利益相反報告書、東京小児科医会報：論文投稿チェックリストとともに、下記送付先に簡易書留ないしレターパックにて送付する。また、電子媒体にコピーした正原稿一部を同封すること。

なお、封筒には<投稿原稿在中>と明記のこと。

14. 査読後再投稿原稿は電子媒体に保存し、ハードコピー1部とともに同封して郵送すること。なお、電子化原稿は下記アドレス宛にメール添付で送信してもよい。

原稿送付先

〒160-8306

新宿区西新宿5-25-11-2F

株式会社日本小児医事出版社内

東京小児科医会事務局

TEL：03-5388-5220, FAX：03-5388-5193

E-mail address：tpa@bloom.ocn.ne.jp

執筆要項

1. 原稿構成

・第1ページを表紙とし、表題、著者全員の所属・氏名、キーワード、連絡責任者の住所・所属・氏名、電話・FAX・e-mailアドレスを記載すること。

・キーワードは5個以内とし、略語は使用しない。外国語を用いる場合は適切な日本語がない場合に限る。

・第2ページ以降は以下の順に作成する。1. 要旨(和文抄録)、2. 本文、3. 利益相反、4. 著者役割(臨床研究)、5. 文献、6. 表、7. 図の説明、8. 図、

投稿論文の文字数、図表、要旨(和文抄録)、文献は以下のとおりとする。

| 種別 | 文字数 | 図表 | 要旨 | 文献 | キーワード | 組み上がり 規定ページ数 |
|------|--------|----|--------|-------|-------|-----------------|
| 臨床研究 | 8,000字 | 8点 | 400字以内 | 制限無し | 5個以内 | 7 |
| 症例報告 | 4,000字 | 5点 | 400字以内 | 15編以内 | 5個以内 | 5 |

2. 組上がりで規定ページ以内の場合は無料とする。規定ページを超える場合は、1ページあたり15,000円の著者負担とする。カラー印刷の代金、図のトレース費用は著者負担とする。

3. 表題は簡潔にし、原則として40字以内として副題は付けないこと。

4. 原稿は、以下の要領に従って作成すること。

・現代かなづかい、常用漢字を用いること。

・学術用語は原則として『小児科用語集』(日本小児科学会編)によること。外国語は極力避け、その使用は適当な日本語がない場合に限る。

・表題には略語を用いないこと。ただし略語を使用したほうが分かりやすい場合は認められる。

・本文中に略語を用いる場合は、一般に使われているものに限る。その場合、初出の際に省略しない語を記載し、括弧内に略語を示すこと。

・原則として、外国人名は原語で、薬品名は一般名で記載すること。

・英数字は半角文字を用いること。

5. 図・表については以下の要領に従うこと。

・表は、必要な情報を簡潔明瞭に示し、何を示そうとしているか分かる表題を付けること。

・図・表は、本文を参照しなくともその図・表のみで内容が分かるように工夫すること。

・図・表とその説明文・表題などは極力日本語を使うこと。

・図・表には各々につきアラビア数字で番号を付すこと(図1、表1など)。

・図・写真は、そのまま縮小可能な形であること。従って、縮小されても情報が読み取れるものとする。

・患者の顔写真を使用する際は、患者本人および患者の代諾者に十分説明の上、文書で同意を得る

こと。本人の意思表示ができない状態では、代諾者の同意のみとする。許可を得たことを写真の説明の中に明記する。被虐待児等の症例で同意が取れない場合には、IRBの承認を得て、その旨を写真の説明の中に明記し、目の部分を隠すなど、患者の同定を不可能にする工夫をすること。

6. 数字はアラビア数字を用い、数量の単位はkm、m、cm、mm、 μm 、l、dl、ml、 μl 、kg、g、mg、 μg 、mEq/l、mg/dlなどを用いること。mm³、cmmなどは用いず、 μl を用いること。

7. 著者全員の著者役割を、文献の前に例のように具体的に記載する。利益相反の後に掲載される。

(著者名)は論文の構想・設計、データの収集・解析および解釈において貢献をした。

(著者名)は論文作成または重要な知的内容に関わる批判的校閲に関与した。

8. 引用文献

・文献は必要最少限にとどめる。記載順序は引用順とし、本文中の引用箇所は、その右肩にアラビア数字で記入する。

・文献の書き方は、次の形式による。

1) 雑誌の場合：著者名. タイトル. 雑誌名 発行年(西暦)；巻：通巻始ページ-通巻終ページ。

2) 書籍の場合：著者名. 書名. 版数. 発行社所在地名：発行社, 発行年(西暦)。

3) 分担執筆による書籍の分担部分を引用の場合：著者名. 分担執筆部分の表題. 編集者名. 書名. 版数. 発行社所在地名：発行社, 発行年(西暦)；分担部分の始ページ-終ページ。

4) 雑誌名は雑誌指定の略名を用い、指定がない場合はIndex Medicusあるいは医学中央雑誌の収録誌略名を用いる。

5) 著者名は3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」とする。

6) ウェブページの場合

著者名(分かれば). “Webページの題名”. Webサイトの名称. 入手先URL, (参照日付). とし、数年間は元データを保存する。

7) 実例

1) Fujisawa K, Tani P, McMillan R, et al. Platelet-associated antibody to glycoprotein IIb/IIIa from chronic immune thrombocytopenic purpura patients often binds to divalent cation-dependent antigens. Blood 1993 ; 81 : 1284-1289.

2) 内田満夫, 金子 稔, 山本 洋, 他. 我が国におけるインフルエンザ(H1N1)2009に対する学校閉鎖の効果. 日衛誌. 2013 ; 68 : 103-117.

3) Cohen MM. The child with multiple birth defects. New York : Raven Press 1982.

4) 大西弘高. アウトカム基盤型教育の歴史, 概念, 理論. 田邊政裕編. アウトカム基盤型教育の理論と実践. 東京 : 篠原出版新社, 2013 : 3-38.

5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al. CDw75. In : Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al, eds. Lymphocyte typing IV : white cell differentiation antigens. New York : Oxford University Press, 1989 : 109-110.

6) 日本小児内分泌学会のホームページ. <http://jspe.umin.jp/medical/taikaku.html> (2015年5月1日参照).

東京小児科医会報：自己申告による利益相反報告書

著者名(共著者を含む全員)： _____

論文題名： _____

(著者全員とその対象者の配偶者、一親等の親族、収入・財産を共有する者が、投稿時から遡って過去1年間以内での発表内容に関する企業・組織または団体との利益相反状態を、該当する著者のみ下記欄に記載してください。)

なお、全ての著者が下記に該当する利益相反がない場合には、次の□にチェックしてください。

すべての著者が、下記に記載の利益相反事項はありません。

| 項目 (1人当たりの金額が該当する場合は有) | 該当の状況 | 有であれば、著者名：企業名などの記載 |
|---|-------|--------------------|
| ①報酬額 1つの企業・団体から年間100万円以上 | 有・無 | |
| ②株式の利益 1つの企業から年間100万円以上、あるいは当該株式の5%以上保有 | 有・無 | |
| ③特許使用料 1つにつき年間100万円以上 | 有・無 | |
| ④講演料 1つの企業・団体からの年間合計50万円以上 | 有・無 | |
| ⑤原稿料 1つの企業・団体から年間合計50万円以上 | 有・無 | |
| ⑥研究費・助成金などの総額 1つの企業・団体からの研究経費を共有する所属部局(講座、分野あるいは研究室など)に支払われた年間総額が200万円以上 | 有・無 | |
| ⑦奨学(奨励)寄付などの総額 1つの企業・団体からの奨学寄付金を共有する所属部局(講座、分野あるいは研究室など)に支払われた年間総額が200万円以上 | 有・無 | |
| ⑧企業などが提供する寄付講座 (企業などからの寄付講座に所属している場合に記載) | 有・無 | |
| ⑨旅費、贈答品などの受領 1つの企業・団体から年間5万円以上 | 有・無 | |

(申告日) 年 月 日

責任著者(署名・押印) _____ ㊞

東京小児科医会報：論文投稿チェックリスト

- 共著者も含めてすべて東京小児科医会会員である
- 投稿論文は臨床研究または症例報告であり、次の領域のいずれかである
 1. 新生児、2. 循環器、3. 神経・筋、4. 精神・心身、5. 血液・腫瘍、6. 免疫・アレルギー、7. 先天異常・遺伝、8. 腎・泌尿・生殖器、9. 内分泌・代謝、10. 感染症、11. 呼吸器、12. 消化器・栄養、13. リウマチ・膠原病、14. 保健、15. 救急、16. その他(思春期、発達、外科、病理など)
- 原著(臨床研究)は8,000字以内、図表計8枚以内、症例報告は4,000字以内、図表計5枚以内である
- 二重投稿ではない
- 論文原稿には、個人の匿名性を守り、説明と同意および所属施設の倫理委員会・治験審査委員会等の承認を得た旨を記載されている
- 東京小児科医会報：自己申告による利益相反報告書が記入同封されている。利益相反がない場合にもその旨を記載し提出が必要
- 投稿原稿はA4版片面に12ポイント大きさを印字してあり、「投稿通知書及び確認書」が署名も含めて記載されている
- 電子媒体にコピーした正原稿一部を同封し、封筒には「投稿原稿在中」と明記されている

- 原稿送付先(下記)に簡易書留またはレターパックで送付する
 - 〒160-8306
 - 新宿区西新宿5-25-11-2F
 - 株式会社日本小児医事出版社内
 - 東京小児科医会事務局
 - TEL：03-5388-5220, FAX：03-5388-5193
 - E-mail address：tpa@bloom.ocn.ne.jp